

まち・自然・歴史をつなぐ親水公園

震災前の骨格が残る数少ない場所のひとつ。
氷上山と広田湾をつなぎ、身近に自然と触れ合える貴重な場所。

① 十分な公園空間の確保

区画整理事業のかさ上げも踏まえ、河川沿いに十分な公園用地を確保することにより、親水空間を実現。

② 県・市共同で一体的な空間整備

河川整備の県、公園整備(区画整理事業)の市が、一体的な空間整備のため綿密に調整。アドバイザーに吉村伸一氏を迎え、河道調整等により既存樹林の保全を実現。

③ 多自然型で親しみやすい川づくり

緩傾斜河岸は固めず捨石処理、低水路やバープエにより、自然の力で多様な水際形成を期待。

潜り橋や階段を整備し親水性を向上。

④ 市民の愛着の醸成

検討時にはワークショップを開催し、震災前の川の思い出、今後の活用への期待等の意見を収集。ワークショップを契機に、住民主体の工事見学会を行い、同好会「川原川ファンクラブ」も結成。Facebookでの情報発信、見学会、除草等を実施。



震災前の川原川



2019年見学会の様子

